

ニュース・レター

No. 42 2020年3月

目次

理事長挨拶	1頁
2019年度総会議事録	2頁
2019年度総会・研究会報告	7頁
2018年度日本選挙学会賞	12頁
『選挙研究』目次	14頁
各委員会からのお知らせ	16頁
理事会だより	19頁
理事会議事録	20頁
事務局だより	29頁

選挙学会の事業と将来

品田 裕

日本選挙学会というのは若い学会でしょうか、会員の皆様はどうお考えでしょう。先日、日本学術会議から全国の学(協)会長あてのアンケートがあり、その中で、各学会の重要任務、課題、将来について訊かれました。アンケートは、しばしば、その質問文や選択肢それぞれ自体が回答者に情報を与えたり、考えるきっかけを作ったりしますが、今回がまさにそうで、ふと、いろいろと考えてこんでしまいました。

学会の事業はいろいろあります。提示された選択肢の中から、日本選挙学会もさまざまな事業を展開中として回答しました。ただ、その中から最重要なものをさらに2つに絞るよう求められました。そうすると、「学術研究集会の開催」と「和文学術誌の出版」を選ばざるを得ません。毎年の研究大会を無事に開催し、『選挙研究』をきちんと出版することが、私たちの活動にとって最大の目標になっていると改めて感じました。確かにこれまで、この二つを通じ、投票行動や選挙などの研究に関し会員の間で十分な情報共有と活発な議論が進み、研究水準が上がってきたと思います。この成果は次の世代に引き継ぐべきものです。

しかし、選ばれなかった他の事業が重要ではないのかというと、決してそんなことはありません。「学生・院生の育成」や「若手研究者への支援」を通じて、「当該分野における若手のプレゼンス向上」が図れば、あるいは、「共同研究計画の醸成の場」を実現でき

れば、どんなに素晴らしいことでしょう。会員構成の偏りを考えれば、今は事業にもなっていないませんが、「男女共同参画の推進」も必要でしょう。いつもの私であれば、質問票の作りが悪いとか文句の一つも言うところですが、この時ばかりは、学会の仕事が多岐にわたることを改めて認識する一方、ルーティンを無事こなすだけでよいのかと反省した次第です。

認知的不協和状態？に陥った私にさらに追い打ちをかけたのが、学会の課題や将来についての質問でした。大会関係(大会開催場所など)、雑誌関係(経営面や投稿数など)、会員数(高齢化など)、男女共同参画の遅れ、他団体との関係(近接団体や包摂団体との)など、実に多様で多くの選択肢が提示される中、本学会についても課題を3つ選ばなければなりません。しかし、ほとんど全部あてはまると思った私は直ちに選ぶことはできず、とりあえず、先に進むことにしました。すると、今度は今後の学会像について回答を迫られるのです。会員数や事業規模を拡大したいのか、あるいは現状維持か、減少か。組織の今後のあり方は、現状維持か、合併か、連合体への参加か、休会か。ここまできると、これはアンケートという形をとった啓蒙活動で、今後の学会の姿を考えさせようとしているのではないかと思うに至りました。

選挙学会結成後、10年目ぐらいに入会した私にとって、選挙学会はいつも若い学会でした。拡大充実が基調なので、正直、将来もあまり考えたことはありませんでした。しかし、現在では、学会としての活動が確立された分、ルーティンが決まっていて、将来の課題はうっすらと感じてはいるが、なかなか手が付けられないというのが実情ではないでしょうか。みなさんなら、優先順位をどのようにつけ、どの課題から取り組もうと考えられますか。

幸い、選挙学会は、以前から改革についての議論があり、去年は、研究大会でもいろいろと意見を出しあうこともできました。この流れを途切れさせることなく、より良い学会を目指して頂ければと思います。政治学や近接領域の研究者も同じような考えの方が多いように見受けられます。連携して、次の時代の学会活動が展開されることを切に願います。

それから、最後に。

高知には、みなさん、自由な服装、好きな格好でお越しください。

(しなだ ゆたか・神戸大学教授)

[目次へ](#)

2019年度総会議事録

2019年度の総会は、2019年7月13日(土)に東北大学川内南キャンパス経済学部第1講義室(大会委員長=河村和徳理事)にて開催されました。

日 時：2019年7月13日(土) 17時~18時

場 所：東北大学川内南キャンパス経済学部第1講義室

1. 理事長挨拶

品田裕理事長から開会の挨拶があった。

また、岩淵理事長より山田真裕事務局長を議長に選出するとの提案があり、承認された。

2. 大会運営委員長挨拶

河村和徳 2019 年度大会委員長から挨拶、および同大会の進行状況に関する説明があった。

議題

3. 各委員会活動報告

■ 企画委員会

名取良太 2019 年度大会企画委員長より、同大会企画趣旨についての説明があった。

前田幸男 2020 年度大会企画委員長より、来年度の企画について説明があった。

■ 年報編集委員会

岡田浩年報編集委員長（第 34 号担当）より、『選挙研究』第 34 巻 1 号・2 号の刊行について報告があった。

森裕城年報編集委員長（第 35 号担当）より、『選挙研究』第 35 巻 1・2 号の内容および編集状況について報告があった。

竹中佳彦年報編集委員長（第 36 号担当）より、『選挙研究』第 36 巻 1・2 号の内容および編集の方針について報告があった。

■ 選挙管理委員会

只野雅人選挙管理委員長より、2019 年度日本選挙学会公選理事候補者選出選挙に関する説明があった。

■ 査読委員会

堤英敬 2018 年度査読委員長より、同委員会活動状況に関する報告があった。

■ 学会賞選考委員会

川人貞史 2018 年度学会賞選考委員長より、2018 年度学会賞の選考結果について説明があった。

4. 2018 年度決算・監査報告

山田事務局長より、2018 年度の決算報告、吉野孝・谷口尚子両監事より監査報告がなされたのち、同決算が承認された。

5. 2020 年度予算案について

山田事務局長から 2020 年度予算案について説明がなされたのち、同予算案が承認された。

6. 2020 年度総会・研究会の開催について（高知工科大学・高知県立大学）

品田理事長から 2020 年度総会・研究大会が高知工科大学で行われる旨について報告が

あった。

7. 2021 年度総会・研究会の開催について

品田理事長から協力の依頼があった。

8. 理事長選出方法の変更について

日本選挙学会理事・監事候補者選出規程第 8 条、第 9 条の改正が承認され、公選された理事候補者によって理事長・理事・監事候補者選考委員会が開かれることとなった。

9. 2018 年度日本選挙学会賞発表・授与式

2018 年度日本選挙学会賞受賞者が川人選考委員会から発表され、品田理事長により学会賞が授与された。

10. その他

山田事務局長より、最近の会員数について報告があった。

以上

2018 年度 決算案

収 入		支 出	
	(円)		(円)
前年度からの繰越金	9,129,784	総会・研究会費	500,000
寄付（櫻田会）	1,400,000	委員会・事務局活動費	337,217
会費等（含、バックナンバー販 売）	3,682,000	通信費	233,402
利子	32	ウェブサイト作成・開発費	163,620
委員会活動費返却分	361,832	謝金	18,000
		学会賞賞金	180,000
		印刷費	5,477,108
		文具代	27,830
		雑費	33,974
		次年度への繰越金	7,602,497
合 計	14,573,648	合 計	10,870,133

年報発行準備金

収 入		支 出	
	(円)		(円)
前年度からの繰越金	10,259,234	次年度への繰越金	10,259,322
受取利息	88		
合 計	10,259,332	合 計	10,259,332

2019 年度 予算案

収 入		支 出	
項目	金額	項目	金額
	(円)		(円)
前年度からの繰越金	7,602,497	総会・研究会	500,000
寄付（櫻田会）	1,400,000	委員会・事務局活動費	500,000
年会費	3,200,000	通信費	250,000
利子	30	ウェブサイト作成・開発費	200,000
委員会活動費返却分	200,000	学生アルバイト費	30,000
		謝金	20,000
		国際交流費	0
		学会賞賞金	180,000
		印刷費	3,100,000
		文具代	40,000
		雑費	50,000
		次年度へ繰越金	7,532,527
合 計	12,402,527	合 計	12,402,527

2019年度日本選挙学会総会ならびに研究会は、2019年7月13日（土）・14日（日）に東北大学で開催されました。

第1日 7月13日（土）

◆分科会 A・B・C (10:00~12:00)

【分科会 A（投票行動部会）】

◇司会者

堤 英敬（香川大学）

◇報告者

福元 健太郎（学習院大学）・菊田恭輔（テキサス大学オースティン校）「投票所閉鎖時刻繰り上げと投票率・各党得票率の関係」

清水 直樹（高知県立大学）

「選挙に良い結果を与えるのは経済状況か支持率か：日本の選挙データを用いた選挙タイミングと選挙結果の分析」

山田恭平（立教大学）・Chisaka Webster（立教大学）

「Does Linguistic Identity Moderate Economic Voting? Analysis of Zambia's 2016 Presidential Election」

◇討論者

堤英敬（香川大学）・遠藤晶久（早稲田大学）

【分科会 B（比較政治部会）：選挙監視の効果に関する比較研究】

◇司会者

中井遼（北九州市立大学）

◇報告者

大槻一統（早稲田大学）

「Election Monitoring and Government Performance: Theory and Experiment」

長辻貴之（早稲田大学）

「Electoral Blind Spot in Africa」

◇討論者

川中豪（アジア経済研究所）・鷲田任邦（東洋大学）

【分科会 C（比較政治）：アジアの選挙】

◇司会者

中村悦大（愛知学院大学）

◇報告者

Yu,Ching-Hsin（国立政治大学）・Tsong-hanTsai（国立政治大学）・Tsong-jyiLin（淡江大学）

「Mid-Term? Candidate's Favorability? Referendum Mobilization? An Examination of Mayoral Election of Taichung City, Taiwan in 2018」

Eric Chen-Hua Yu（国立政治大学）・Chi-linTsai（国立政治大学）・Tsong-hanTsai（国立政治大学）「Electoral expectations in concurrent elections」

Su-FengCheng（国立政治大学）・Ying-lungChou（淡江大学）・Cheng-haoPao（淡江大学）

「Self-identity and Political Socialization Experience of the Overseas Compatriots」

◇討論者

庄司香（学習院大学）・中村悦大（愛知学院大学）

◆理事会（12:05～12:55）

◆分科会 D・E・F（13:00～15:00）

【分科会 D（地方部会）：地方政治分析への新たなアプローチ】

◇司会者

藤村直史（神戸大学）

◇報告者

石間英雄（京都大学）

「投票方式と立法行動：オーストラリア州議会の知見から」

三輪洋文（学習院大学）

「日本の最高裁裁判官のイデオロギー位置の推定」

矢内勇生（高知工科大学）・Song Jaehyun（早稲田大学）

「定量的選挙研究における結果の解釈をめぐる問題」

◇討論者

鹿毛利枝子（東京大学）・稲増一憲（関西学院大学）

【分科会 E（社会心理部会）：社会心理学研究の「社会心理学らしさ」は選挙研究にどう活かせるか】

◇司会者

三浦麻子（大阪大学）

◇報告者

大坪庸介（神戸大学）

「政治的謝罪への抵抗感に関する研究」

清水裕士（関西学院大学）

「不平等な社会状態の価値割引モデル」

小林哲郎（香港城市大学）

「Why are Politically Active People Avoided in Countries with Collectivistic Culture? A Cross-Cultural Experiment」

◇討論者

福元健太郎（学習院大学）

【分科会 F（メディア部会）：マスメディアと政治】

◇司会者

秦正樹（京都府立大学）

◇報告者

千葉涼（早稲田大学）

「日本の全国紙における選挙報道の多様性—トピックモデルを用いた記事の分類に基づく指標化—」

浅野良成（東京大学）

「メディアの党派的バイアスと「外交投票」」

◇討論者

井田正道（明治大学）・秦正樹（京都府立大学）

◆共通論題：シンポジウム「新時代の選挙研究・選挙学会 ～選挙学会は存続できるのか」
（15:15～17:45）

◇登壇者

尾野嘉邦（東北大学） 「数理・計量研究の立場から」
日野愛郎（早稲田大学）「地域研究・比較研究の立場から」
清水唯一朗（慶應義塾大学）「政治史研究の立場から」
湯浅壘道（情報セキュリティ大学院大学）「法律・制度研究の立場から」
堀内勇作（ダートマス大学）「日本選挙学会の意義」（録画）
今井耕介（ハーバード大学）「日本選挙学会への期待」（録画）
◇司会者
名取良太（関西大学）

◆総会（東北大学川内南キャンパス経済学部第1講義室）

◆懇親会（東北大学川内北キャンパス キッチンテラス Couleur（クルール））

【第2日】 7月14日（日）

◆分科会 G・H・I（9:30～11:30）

【分科会 G（方法論部会）：データ収集と因果推論】

◇司会者
鎌原勇太（横浜国立大学）
◇報告者
菊田恭輔（University of Texas at Austin）
「Drowning-out Effect: Voter Participation, Uncertainty, and Protests」
岡田陽介（拓殖大学）
「候補者の「声」の高低と得票-2014年衆議院選挙における全国立候補者の分析」
原田勝孝（福岡大学）・伊藤岳（広島大学）
「Measuring Destruction from Above: The long-term impact of the WWII air raids in Japan」
◇討論者
松林哲也（大阪大学）

【分科会 H（法律部会）：選挙制度をめぐる憲法の規律密度と統制力—各国比較】

◇司会者
新井誠（広島大学）
◇報告者
徳永貴志（和光大学）
「フランスにおける選挙制度をめぐる憲法上の規律」
芦田淳（国立国会図書館）
「イタリアにおける選挙制度をめぐる憲法規律」
木下和朗（岡山大学）
「イギリス議会下院議員選挙制度をめぐる憲法上の規律」
◇討論者
横大道聡（慶應義塾大学）

【分科会 I（歴史・制度部会）】

◇司会者
坂本健蔵（平成国際大学）
◇報告者
松岡信之（明治大学）

「衆議院議員選挙法改正案の論理～1938年議会制度審議会における議論の実態分析～」
安野修右（日本大学大学院）

「厳格な選挙運動規制は有権者の投票を妨げるのか？」

◇討論者

奥健太郎（東海大学）・坂本健蔵（平成国際大学）

◆分科会 J・K・L(12:30～14:30)

【分科会 J（方法論部会）：選挙研究における実験】

◇司会者

肥前洋一（高知工科大学）

◇報告者

秦正樹（京都府立大学）

「『普通の』日本人』ほど騙される？：政治的デマの受容メカニズムに関する実験研究」

久保慶明（琉球大学）・岡田勇（名古屋大学）・柳至（琉球大学）

「サーベイ実験を用いた 2019 年沖縄県民投票の分析—選択肢デザイン効果と投票参加効果—」

谷口尚子（慶應義塾大学）

「なぜ接戦の選挙で投票意欲が高まるのか？ —fMRI を用いた脳神経科学実験—」

◇討論者

境家史郎（首都大学東京）・肥前洋一（高知工科大学）

【分科会 K（書評セッション）：善教将大. 2018 年. 『維新支持の分析 -- ポピュリズムか、有権者の合理性か』有斐閣】

◇司会者

西川賢（津田塾大学）

◇パネラー

善教将大（関西学院大学）・伊藤武（東京大学）・竹中佳彦（筑波大学）・西澤由隆（同志社大学）

【分科会 L（比較政治部会）：政党行動をめぐる理論と実証】

◇司会者

古賀光生（中央大学）

◇報告者

新川匠郎（上智大学）

「リヒテンシュタインの新党問題：政党政治の再編成への一考察」

浅野正彦（拓殖大学）・デニス・パターソン（テキサス工科大学）

「Should I stay or should I go? --- Why Politicians Exit Political Parties and Join Others」

宮内悠輔（立教大学大学院）

「地域主義政党における排外主義の（非）選択——ベルギー地域主義政党・ヴォルクスユニの事例」

◇討論者

浜中新吾（龍谷大学）・古賀光生（中央大学）

◆分科会 M・N(14:45～16:45)

【分科会 M（地域研究）：各国の選挙と政治（自由論題）】

◇司会者

富崎隆（駒澤大学）

◇報告者

杉田弘也（神奈川大学）

「オーストラリア連邦憲法 44 条：相次いだ議員失格の原因と解決法」

門屋寿（早稲田大学）

「独裁者の交代は選挙を変えるかー権威主義体制下におけるリーダー交代の選挙競争への影響ー」

庄司香（学習院大学）

「ガーナにおける女性の政治進出」

◇討論者

鎌原勇太（横浜国立大学）・富崎隆（駒澤大学）

【分科会 N（政治参加部会）：政策決定過程における市民参加】

◇司会者

名取良太（関西大学）

◇報告者

塩沢健一（鳥取大学）

「合併をめぐる 2 種類の住民投票に関する再検証：いかに「民意」を集約し、機能し得たのか？」

中谷美穂（明治学院大学）

「政策決定過程が議会信頼に与える影響について：シナリオ実験を用いた検証」

五ノ井健（早稲田大学大学院）・小川寛貴（高知大学）

「誰が請願を紹介するのかー衆議院議員の分析ー」

◇討論者

名取良太（関西大学）

◆分科会 O（11:00～16:00）

【分科会 O（ポスターセッション）：選挙研究のフロンティア】

横山智哉（立教大学）・小林哲郎（香港城市大学） 11:00～12:30

「サーベイ実験を用いた首相キューの効果の追試」

稲増一憲（関西学院大学）・小濱祥子（北海道大学）・三船恒裕（高知工科大学）・多湖淳（早稲田大学） 14:30～16:00

「日本政府の謝罪への抵抗感の既定因：政治的洗練性によって弁別される 2 つの過程」

小野恵子（国際基督教大学） 13:00～14:30

「データ・サイエンス時代の地理空間データ分析：政治・政策分析への応用」

田中智和（上宮高等学校） 13:00～14:30

「18 歳の政治意識とメディア接触について」

中村公亮（横浜市立大学大学院）・和田淳一郎（横浜市立大学） 13:00～14:30

「票を呼ぶには笑顔を見せること?：道府県議会選挙における選挙公報の笑顔度と得票率」

亀ヶ谷雅彦（山形県立米沢女子短期大学） 11:00～12:30

「三世同居と投票率」

岸下大樹（東京大学大学院）・山岸敦（東京大学大学院）11:00～12:30

「Contagion of Populist Extremism」

堀田敬介（文教大学）13:00～14:30

「都道府県議会の選挙区割」

金子智樹（東京大学大学院）11:00～12:30

「政治家のスキャンダルに関する新聞報道の計量分析」

浜中新吾（龍谷大学）・山尾大（九州大学）11:00～12:30

「ポスト紛争社会の政治動員と投票率の関係」

掛谷英紀（筑波大学）・樋口心（筑波大学）

「国会会議録と書評を用いた政治的見解が異なる人物像の分析」

福元健太郎（学習院大学）・菊田恭輔（テキサス大学オースティン校）・柳雅人（元学習院大学）14:30～16:00

「災い転じて票となす」

吐合大祐（神戸大学）11:00～12:30

「誰が事前審査制を支持するのか：議員の選挙誘因が政党組織に与える影響の分析」

前田幸男（東京大学）・山田真裕（関西学院大学）・日野愛郎（早稲田大学）・松林哲也（大阪大学）14:30～16:00

「民主主義の分断と選挙制度の役割：調査データの概要」

小椋郁馬（Georgetown University）13:00～14:30

「Ideal Point Estimation Under Changing Policy Space」

青山和志（京都大学）11:00～12:30

「政府の議事運営権と政党間対立—カナダ議会を対象として—」

中島有希大（慶應義塾大学大学院）14:30～16:00

「The Influence of Incumbents on The Redistricting of Electoral Districts in Japan's Lower House」

西村翼（神戸大学大学院）14:30～16:00

「政党の地元候補公認戦略：規定要因としての選挙結果」

2018年度日本選挙学会賞

日本選挙学会賞は、会員相互の研究交流の促進と広い意味での選挙研究の発展を目的として2009年度に創設されました。学会賞には、研究会のポスターセッションにおける会員の優れた研究発表を対象とする「優秀ポスター」、研究会における会員の優れた論文報告を対象とする「優秀報告」、『選挙研究』に掲載された会員の優れた投稿論文を対象とする「優秀論文」、の3つの賞が設けられています。

2018年度の実賞者は次のとおりです。

【優秀論文】

小川寛貴（高知大学）「制度間不均一が有権者に与える影響—政党差別化の分析—」

【優秀報告】

山田恭平（立教大学）・尾野嘉邦（東北大学）

「インターネット選挙運動と公職選挙法」

岸下大樹（東京大学）・笠松怜史（東京大学・報告時非会員）

「Informative Campaigning in Multidimensional Politics: A Role of Naive Voters」

【優秀ポスター】

善教 将大（関西学院大学）・稗田 健志（大阪市立大学・非会員）

「誰がポピュリストの言説を支持するのか：サーベイ実験による検証」

大倉沙江（三重大学）

「日本の障害者と政治参加の格差構造：選挙権、投票手続き、投票への参加」

Song Jaehyun（早稲田大学）

「伸縮争点空間と争点投票モデルの統合」

講評

2018年度の学会賞は、優秀論文については、『選挙研究』第34巻に掲載された投稿論文5点が対象となりました。5人の選考委員の順位つき投票の結果、小川論文に高評価が集中しました。国政と地方で選挙制度が一致しない制度間不均一が有権者の政党差別化の認知に影響することを調査データを用いて実証分析したものです。

優秀報告については、2018年度研究会（於拓殖大学）で期限内に提出され発表された報告のうち、筆頭著者が会員であるもの32点が選考対象となりました。山田・尾野報告は、古典的な民主政治のテーマから地方議員行動の違いに関する仮説を引き出し、独自に実施した調査データの実証分析を行ったものであり、オリジナルな分析として評価されました。岸下・笠松報告は、候補者のキャンペーンによって情報が正しく有権者に伝わる条件をシグナリング・ゲームによって検討したものであり、ナイーブな投票者という限定合理的なアクターを想定した独創的な分析をフォーマル・セオリーに慣れ親しんでいない聴衆にもわかりやすく説明した報告として評価されました。

優秀ポスターについては、研究会のポスター・セッションにおける25点が選考対象となりました。善教・稗田報告は、ポピュリズム研究の枠組みを用いて、日本で実施した独自のサーベイ実験データを用いた分析を行ったもので、プレゼンテーションも明瞭に行われており、学術的貢献が認められると評価されました。大倉報告は、日本の政治参加研究者がこれまで等閑視してきた重要テーマを扱っており、障害者の投票率が低いという点を実証的に示したことの社会的意義は大きく、今後の研究発展が期待されると評価されました。Song報告は、投票行動の数理モデルに斬新な理論的工夫を加え、さらに実験を行うことで実証的な裏付けを得ることを試みた野心的研究として評価されました。

学会賞の選考にあたって、委員各位および多くの方々のご協力をいただいたことにお礼申し上げます。

（2018年度学会賞選考委員長 川人貞史）

[目次へ](#)

『選挙研究』 目次

第 35 卷 1 号

はじめに	森 裕城
<p><特集 日本の選挙政治における連続と変化></p>	
第 2 次安倍政権とその政策	大川千寿
有権者の候補者イメージ再考	
一金沢市における意識調査データの分析をもとに	岡田 浩
2016 年参院選福島県選挙区における復興政策評価と投票行動	河村和徳
沖縄における選挙協力と政策争点	
—2017 年総選挙・2018 年知事選挙・2019 年県民投票の分析—	久保慶明
女性議員の過少代表をめぐる歴史と課題 —鳥取県を事例として—	春日雅司・竹安栄子
自民党における候補者公募制度の採用と政党地方組織	堤 英敬
新自由主義時代における利益団体の政策選好	山本英弘
安倍政権におけるアメとムチのメディア戦略	桶田 敦
<p><投稿論文></p>	
Obtaining Multiple Election Cards and Voting Multiple Times in Afghanistan: Data from a Survey of Voters in Jalalabad City	Muslih, Nisar Ahmad, and Kyohei YAMADA
<p><書評></p>	
Cheeseman, N., & Klaas, B. <i>How to Rig an Election.</i>	河野 勝
Morse, Y. L. <i>How Autocrats Compete: Parties, Patrons, and Unfair Elections in Africa.</i>	門屋 寿
濱本真輔著『現代日本の政党政治：選挙制度改革は何をもたらしたのか』	高安健将
岡田陽介著『政治的義務感と投票参加	
—有権者の社会関係資本と政治的エピソード記憶』	飯田 健
岡本哲和著『日本のネット選挙：黎明期から 18 歳選挙権時代まで』	今井亮佑
末木孝典著『選挙干渉と立憲政治』	下重直樹
中條美和著『知事が政治家になるとき』	大倉沙江
<p><報告></p>	
2014 年度第 3 回海外学会報告奨励費受領者による英文雑誌掲載の報告	
2016 年度第 1 回海外学会報告奨励費受領者による英文雑誌掲載の報告	

第 35 卷 2 号

はじめに

森 裕城

<特集 選挙過程を捉えなおす>

- 競争と代表 — 2つの民主主義の共振— 河野勝・荒井紀一郎
女性リクルートメントの検証 — 2019年統一地方選挙の分析から— 大木直子
日本の国政選挙における投票率の党派的效果 鈴木創
障害等のある有権者や寝たきりの有権者はどのように投票に参加してきたのか？
— 「投票権保障」と「選挙の構成」の間— 大倉沙江
「一票の較差」問題に対する有権者の認識 今井亮佑

<投稿論文>

- 参議院最適合区について 堀田啓介・根本俊男・和田淳一郎
リヒテンシュタインにおける新党の議会進出
— 西ヨーロッパ政党政治の再編成への一考察— 新川匠郎

<書評>

- Danny Hayes and Jenifer L. Lawless. *Women on the Run: Gender, Media, and Political Campaigns in a Polarized Era.* 芦谷圭祐
Hidekuni Washida. *Distributive politics in Malaysia: Maintaining Authoritarian Party Dominance.* 谷口友季子
Michael Koß. *Parliaments in Time: The Evolutionary of Legislative Democracy in Western Europe, 1866-2015.* 青山和志
岩淵美克／岩崎正洋編著『日本の連立政権』 河野武司
伊東久智著『「院外青年」運動の研究』 下重直樹
三船毅編著『政治的空間における有権者・政党・政策』 京俊介
河崎健編著『日本とヨーロッパの選挙と政治
— 主要国の選挙制度改革をめぐる議論と実際—』 濱本真輔
遠藤晶久／ウィリー・ジョウ著『イデオロギーと日本政治
— 世代で異なる「保守」と「革新」』 西澤由隆

<資料> 最近の選挙結果

各委員会からのお知らせ

【企画委員会から】

2020 年度日本選挙学会総会・研究会は、2020 年 5 月 16 日（土）・17 日（日）に高知工科大学・永国寺キャンパス（大会運営委員長・肥前洋一理事）で開催されます。共通論題は、「地方政治」というタイトルで、地方政治に関わる問題を 3 人の登壇者からそれぞれの切り口で議論して頂きます。“All politics is local”というフレーズは米国政治でよく言及されますが、政治家・政党が有権者と直接接触するのはそれぞれの選挙区や自治体においてであることは、自由で競争的な選挙を行っているすべての国で共通です。本研究会の共通論題を、具体的な地方の文脈から、あるいは中央—地方関係の文脈で、日本の政党政治を捉え直す機会にしたいと考えております。

通常の分科会に関しては、企画委員会では公募に応募して下さった会員に報告して頂くことを最優先の課題として設定しました。9 月下旬締め切りの公募には 23 件の応募がありました。そのうち口頭報告を希望されている 18 組にはすべて口頭報告を行って頂きます。応募論文だけで分科会を組むことが難しい場合は、まとまりのある分科会になるように配慮しながら、企画委員会の方で追加の登壇者の選定と依頼をお願いしました。このほか、企画委員主導で設定した分科会がいくつかあります。また、ポスター・セッションは、他の分科会が実施されていない時間帯に単独で実施されます。

共通論題とポスター・セッションを除く分科会の数は 12 で、1 つの時間帯に 3 つの分科会が並行して開催されることとなります。具体的な内容は、後日公開される研究会プログラムをご覧くださいと思いますが、書評セッションの他、若手研究者のみが登壇する分科会を企画するなど工夫を凝らしております。

なお、報告概要・報告論文のアップロード期間等は以下の通りです。締め切り厳守でお願い致します。

- ・ 報告概要のアップロード期間：2020/2/16～3/1（0：00）
- ・ 報告論文のアップロード期間：2020/4/16～5/1（0：00）

企画委員会としては多くの会員の皆様にとって有益な研究会になるように微力ではございますが、努力を続けております。奮ってご参加いただければ幸いです。皆様と高知工科大学でお会いすることを楽しみにしております。

（2020 年度大会企画委員長 前田幸男）

【年報編集委員会から】

2019年度刊行の『選挙研究』第35巻第2号では、特集テーマを「選挙過程を捉えなおす」と設定し、選挙研究の「対象」それ自体を捉えなおすことを指向した論文5本を掲載いたしました。特集論文以外には、2本の投稿論文、8本の書評を掲載しています。本号刊行にあたっては、編集委員会、査読委員会、事務局、木鐸社の皆様に大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

第35巻編集委員会では、前年度同様、投稿査読論文を最優先して掲載する方針をとってきました。第1号では1本、第2号では2本の投稿論文を掲載できましたが、投稿数・採択数ともに決して多いとは言えない状況が続いています。会員の皆様の積極的な投稿をお願い致します。
(年報第35巻担当編集委員長 森 裕城)

近年進んできた政治空間の多層化は、選挙研究の「マルチレベル」化を促してきました。地方政治と国政の相互作用や、国際政治環境が国内の選挙過程に及ぼす影響が論じられてきました。加えて方法論的には、個人レベルと集団レベルの影響を考えるマルチレベルモデルも定着しています。そこで、2020年度刊行の『選挙研究』第36巻第1号（6月刊行予定）では、特集テーマを「マルチレベルの選挙研究」と設定し、6本の論稿を掲載する予定です。

第36巻第2号（12月刊行予定）の特集は、2020年度研究会の共通論題等から設定するほか、「2017年衆院選・2019年参院選の分析」と「選挙と憲法改正」を小特集とすることとして会員からの論文を公募しました。しかし小特集への投稿は、1月下旬の時点でまだ1本もありませんので、方針を変更し、小特集をひとつにまとめて「安倍政権下の選挙」という特集として、依頼論文中心に編集することとします。

なお、通常の投稿査読論文も、投稿数がきわめて少ない状況が続いております。会員の皆様からの積極的な投稿をお待ちしております。

(年報第36巻担当編集委員長 竹中 佳彦)

※※※投稿資格と投稿方法※※※

1. 投稿資格：

論文を投稿できるのは、投稿時点において年会費を完納している日本選挙学会の正会員です。論文を投稿するにあたっては、学会ウェブ上のMY JAESで会費納入状況を確認してください。なお、会費納入状況は月末締めで更新されますことにご留意ください。投稿の詳細につきましては、学会ウェブ上に掲載してある「『選挙研究』執筆要領及び論文投稿要領」(<http://www.jaesnet.org/download/rules/JJES20141206.pdf>)をご確認ください。

2. 投稿方法：

投稿は随時受け付けております。学会ウェブサイト(<http://www.jaesnet.org/index.html>)上のMY JAESから論文のPDFファイルをアップロードしてください。投稿方法の詳細につきましては、同じく学会ウェブサイトにあります「論文投稿システムマニュアル（投稿者用）」(http://www.jaesnet.org/important_news/pdf/manual_contributor_ver1_1.pdf)をご参照ください。年報編集委員会より投稿受理の連絡を投稿者にするとともに、査読委員会に投稿論文を送付します。投稿後、時間が経過しても（2週間程度）原稿受理の連絡がな

い場合、改めて連絡をいただければ幸いです。

【お詫びと訂正】

日本選挙学会年報『選挙研究』33巻1号（2017年）と35巻2号（2019年）において、編集段階のミスに起因する誤りがあることが判明いたしました。著者の先生方、読者の皆様にお詫び申し上げますとともに、次のとおり訂正いたします。

<33巻1号>

論文名「2016年アメリカ大統領選挙の選挙運動—集票戦略の効果をめぐる問題を中心に—」

- ・ 21頁左列 中程の小見出し（3.1）
誤：対立軸の3変容と支持者連合
正：対立軸の変容と支持者連合
- ・ 28～29頁 参考文献
誤：Allison, Rojanasakul, Harris and Sam.（2016年1月20日閲覧）
正：Allison, Rojanasakul, Harris and Sam.（2017年1月20日閲覧）
誤：Beldock（2016年1月15日閲覧）
正：Beldock（2017年1月15日閲覧）
誤：Johnson（2016年1月5日閲覧）
正：Johnson（2017年1月5日閲覧）
誤：Wilson and Disipio（2016年1月5日閲覧）
正：Wilson and Disipio（2017年1月5日閲覧）

<35巻2号>

論文名「競争と代表—2つの民主主義の共振—」

- ・ 7頁～17頁 奇数頁の頁番号の横に記載される論文名
誤：戦争と代表
正：競争と代表
- ・ 8頁 図1の説明の最下段
誤：（上から）農業団体、農業団体、農業団体、農業団体
正：（上から）農業団体、経済団体、労働団体、市民団体
- ・ 16頁 謝辞の中の人物名
誤：久米郁夫
正：久米郁男

【査読委員会から】

昨年7月に発足した今期の査読委員会では、2020年1月28日時点で4本の投稿論文を受け付けており、そのうち1本の掲載が確定しています。

論文を学術誌に投稿する際の関心といえば、最短でどれくらいの期間で掲載決定に至るのか、ということかと思えます。今期査読委員会の場合、査読委員会による投稿論文の受付から査読者候補の選定に1～2日、査読依頼から3名の査読者決定までが1日から2週間（場合によっては査読者を確定するまでが一苦勞です）、論文の査読に約1か月と、投稿受付から最初の査読結果が出るまで合計して1か月から1か月半となっています。さらに最初の査読で修正の機会が与えられた論文の再提出から再査読結果通知までが2～3週間です。例えば、今期掲載決定に至った論文の場合、投稿から最初の査読結果までが

31 日間、論文の再提出から再査読結果までが 15 日間となっています。

こうした比較的迅速な査読プロセスが可能なのも、ひとえに査読をお引き受け下さった会員の皆さまのご尽力のおかげです。さらに査読者による詳細なコメントには常々、感銘を受けているところです。このように『選挙研究』では、迅速で質の高い査読が受けられると自負しておりますので、ぜひ多くの会員の皆さまにご投稿頂ければと願います。また査読委員会から査読の依頼をさせて頂いた際には、可能な限りお引き受け下さいますよう、こちらも合わせてお願い申し上げます。 (2019 年度査読委員長 飯田 健)

[目次へ](#)

理事会だより

【学会賞について】

2019 年 12 月 21 日に開催された 2019 年度第 3 回理事会において、以下の「2020 年度日本選挙学会賞要綱」が承認されました。

2020 年度日本選挙学会賞要綱

日本選挙学会事務局

(目的)

1. 日本選挙学会は、会員の優れた研究業績を顕彰するために、本学会に学会賞を設ける。

(学会賞の種類)

2. 学会賞として、以下を設ける。

1) 優秀ポスター

2020 年度研究会のポスターセッションにおける会員の優れた研究発表を対象とする。

2) 優秀報告

2020 年度研究会における会員の優れた論文報告を対象とする。

3) 優秀論文

2020 年度に発行された、日本選挙学会年報『選挙研究』(第 36 巻第 1 号・第 2 号)に掲載された会員の優れた投稿論文を対象とする。

(選考委員会)

3. 学会賞の選考のため、選考委員会を組織する。選考委員会の構成は、以下の通りとする。

1) 選考委員会は、理事長の推薦、理事会の承認を得た選考委員長及び選考副委員長、当該年度の企画委員長、編集委員長、査読委員長によって構成される。

2) 選考委員会は、ポスター小委員会、報告小委員会、論文小委員会を組織し、それぞれ小委員会委員を会員に委嘱する。ただし、小委員会委員は公表しない。

3の2. 選考委員会および各小委員会の任期は、各委員会の組織された日から学会賞の表彰される当該年次総会までとする。ただし、再任を妨げない。

(選考手続き)

4. 学会賞は以下の手続きによって選考する。
 - 1) 各小委員会は、対象となる研究業績について第一次選考を行い、第二次選考に残る研究業績を選考委員会に提案する。
 - 2) 選考委員会は、各小委員会の提案に基づき、第二次選考を最終選考とし、受賞候補を決定する。
 - 3) 選考委員会は、定められた期日までに選考の経過および結果を理事会に報告する。

(表彰)

5. 受賞者それぞれに、賞状および副賞として賞金を授与する。

[目次へ](#)

理事会議事録

日本選挙学会 2018年度第3回理事会議事録

日時：2018年12月21日(土) 15時00分～16時40分

場所：関西学院大学丸の内キャンパス(サピアタワー10階)ランバスホール

出席者：品田裕(理事長)、山田真裕(事務局長)、井田正道、岩崎正洋、遠藤晶久、岡田陽介、鎌原勇太、川戸恵子、河村和徳、只野雅人、辻由希、堤英敬、名取良太、肥前洋一(以上理事)、谷口尚子(監事)、秦正樹、平野淳一、三輪洋文、横山智哉(以上幹事)

議題

I. 前回議事録の承認

II. 報告事項

1. 各委員会の活動状況について

*企画委員会報告

名取良太 2019年度研究大会委員長より企画公募の方針とスケジュール案が示された。大会時期の変更に合わせて、公募期間をずらすこと、パネル単位での募集を始めること、状況によってはポスターだけでなく報告も追加募集を行う可能性があることなどが報告された。会場(東北大学)の状況も勘案しながら、3月末を目処に企画委員会で全体のスケジュールを調整する。

*編集委員会報告

岡田浩 2018年度編集委員長(山田事務局長の代読)より、選挙研究2018年度2号について、前回の理事会での報告から変更はなく、順調に進んでいることが報告された。また森

裕城 2019 年度編集委員長（山田事務局長の代読）より，2018 年 11 月に編集委員会を立ち上げ，特集論文のテーマを決定し執筆依頼を行った。その他，書評論文についても内容を検討している。共著論文について，共著者のうち 1 人が選挙学会会員であればよいことを確認した。

＊査読委員会報告

堤英敬 2018 年度査読委員長より，以下の報告があった。1 本はアクセプトされ，2019 年 1 号の掲載が確定した。現在，再投稿 1 件（再査読中）のみの状態であり，昨年度に比べても大幅に投稿数が減少していることが報告された。

＊国際化委員会報告

遠藤晶久委員長より，以下の報告があった。1 件，過去に海外学会奨励費を受けた者から返還の申し出があり受理され，これで海外学会奨励費に関する対応がすべて終わった旨も報告された。今後，逼迫する学会予算の中で同様の奨励費を復活するのか，仮に復活するならば，会員にとってより有意義かつ使いやすい制度を改めて構築すること，また成果の広報方法についても見直していく方針について理事会全体で確認された。

＊学会賞選考委員会報告

川人貞史学会賞選考委員長（山田事務局長の代読）より，2018 年度学会賞対象者の選考結果について報告があった。

＊選挙管理委員会報告

只野雅人選挙管理委員長より，選挙管理委員として，稲葉哲郎会員（一橋大学）と新井誠会員（広島大学）に依頼し，両名より承諾を得た旨が報告された。

2. 2019 年度総会・研究会の開催について（東北大学）

河村和徳大会委員長より，大会準備は順調に進んでいることが報告された。2019 年度の研究大会は日程が大幅に変更されたため，その周知を徹底するよう提案され，事務局で今後対応することとなった。

3. 2020 年度総会・研究会の開催について（高知工科大学・高知県立大学）

肥前洋一委員長より，大会準備は順調に進んでいることが報告された。

4. ニュースレターの発行について

山田事務局長より，各委員会委員長へのニュースレターの執筆依頼がなされた。

III. 審議事項

5. 2018 年度日本選挙学会賞について

2018 年度学会賞選考委員会からの学会賞受賞者案について，異議なく理事会で承認された。

6. 2019年度学会賞選考委員長について

品田理事長より、通例に従う方針について報告され、承認された。

IV. その他

1. 入退会申込者について

山田事務局長より、前理事会以降、5名の新規の入会希望者、2名の退会を確認した。納入する学会費の誤りについては、適宜、事務局で対応していることも報告された。

V. 懇談事項

品田理事長より、学会将来構想委員会のその後について、具体案のアイデア出しを進めていくよう提案がなされた。その中で、とくに若手研究者支援として、学会誌の在り方（査読プロセスや研究ノートの復活など）の再検討や、広報やアウトリーチの在り方（各種メディアへの積極的な情報提供や一般向けの情報発信など）について、活発な提案がなされた。ただし、選挙学会では政治的な問題を扱う性質上、一般向けの情報発信は慎重に進めるべきとの意見もあった。今後もこれらの案件について継続的に議論していくことが確認された。

以 上

日本選挙学会
2018年度第4回理事会議事録

日時：2019年3月16日（土） 15時00分～16時45分

場所：関西学院大大阪梅田キャンパス 1408号室

出席者：理事長：品田裕（理事長）山田真裕（事務局長），遠藤晶久，岡田浩，
河村和徳，堤英敬，名取良太，肥前洋一，前田幸男，三船毅，森裕城（以上理事），
秦正樹，平野淳一，三輪洋文，横山智哉（以上幹事）

議題

I. 前回議事録の承認

II. 報告事項

1. 各委員会の活動状況について

*企画委員会報告

名取良太 2019年度研究大会委員長より，現在の状況について説明があった。全体としては順調である旨報告された。3月21日の応募の締切を終えてからでなければ全体の状況がわからないが，理事会のタイミングと合わないのでメール等で適宜調整を進めていく予定である。

*編集委員会報告

森裕城 2019年度編集委員長より，選挙研究 35巻1号の編集を始めたが報告された。木鐸社には4月上旬の入稿を考えており，これがあれば通常と変わらないペースで刊行できると確認している。2号について，学会の開催日が7月に変更されたことに伴って，これまでとスケジュールを変える必要がある。これは学会開催までに企画委員などとも調整した上で検討したい。

*査読委員会報告

堤英敬 2018年度査読委員長より，投稿状況等の報告があった。前回理事会以降，1本の投稿があり，現委員会で3本の投稿があった。1本はリジェクト，1本は再査読期限までに再投稿されなかった。昨年度の投稿論文の査読プロセスにおいて，査読者から，投稿論文のファイルに投稿者の名前が残っているとの申告があった。この点について査読委員長の確認不足であったことについてお詫びがあった。投稿の際には投稿者の情報を完全に消すよう周知しているが，なかなかそうならないのでさらなる周知が必要である。

*2020年度企画委員会報告

前田幸男 2020年度研究大会委員長より，今年の研究大会が終わってから報告者の募集をかける旨の報告があった。

*国際化委員会報告

遠藤晶久委員長より，過去に海外学会報告の助成を受けた者の論文が掲載されたとの報告があった。

*学会賞選考委員会報告

事務局より、前回理事会で承認されたすべての学会賞受賞対象者から、受賞を受ける旨の確認を得たことが報告された。

＊選挙管理委員会報告

事務局より、次年度の理事選挙の準備を進めている旨報告された。

2. 2019年度総会・研究会の開催について（東北大学）

河村和徳委員長より、企画の全体像がわかってきてから教室の割り振りを行う予定であることと、懇親会の会場を調整中である旨の報告があった。

3. 2020年度総会・研究会の開催について（高知工科大学・高知県立大学）

肥前洋一委員長より、2020年度の研究大会は、会場費の関係で、大学との共催となった旨の報告があった。

4. ニュースレターの発行について

山田事務局長より、ニュースレターが無事刊行された旨報告があった。

III. 審議事項

5. 2019年度日本選挙学会賞について

山田事務局長より、2019年度日本選挙学会賞要綱について提案され、異議なく理事会で承認された。各賞に重複する受賞者の取扱いについて問題提起され、今後、引き続き検討していくことで確認された。

6. 2019年度学会賞選考副委員長の選考について

品田理事長より、適任者について推薦を求めた。

7. 学会賞受賞候補者の扱いについて

山田事務局長より、受賞候補者の扱いについて、現在は、受賞資格として総会への出席が条件になっているが、たとえば在外研究中の受賞者は総会に来られない場合などもあることから、受賞条件を緩和するべきではないかとの問題の提起がなされた。緩和の方向については理事会で概ね合意を得、とくに受賞者が受賞したことを表明して良いタイミング等については早く内規化できるよう検討する方向で確認された。

8. 理事長選出方法について

山田事務局長より、理事長候補者の選出方法に関する規定改正案について提起された。理事会の回数などについて議論がなされたが、欠席の理事も含めた確認も必要であるため、メール等での連絡も含めて7月の総会での提案に向けて検討する方向で確認された。

IV. その他

1. 入退会申込者について

山田事務局長より、入退会者について報告があった。退会希望者は個人6名、法人1、未納者は16名、新規入会者は12名であった。なお過去の未納退会者について、再び会員になるためには、新たに学会入会申し込みの必要があることが確認された。現時点での会員数は472名である。

V. 懇談事項

品田理事長より、学会開催中の SNS 利用を解禁するべきかについて問題提起がなされた。報告者の許諾や権利関係などについて検討すべきことは多いが、完全に NG というのも学会のプロモーションとしても時代の流れとしても考えるべき時期に来ており、今後検討すべき課題であることについては確認された。

日本選挙学会 2019 年度第 1 回理事会議事録

日時：2019 年 7 月 13 日（土） 12 時 10 分～12 時 50 分

場所：東北大学川内南キャンパス文科系総合講義棟 2 階小講義室

出席者

理事：品田裕（理事長）、山田真裕（事務局長）、井田正道、遠藤晶久、岡田陽介、河村和徳、庄司香、只野雅人、堤英敬、肥前洋一、前田幸男、森裕城、岩崎正洋、岡田浩、鎌原勇太、川戸恵子、竹中佳彦、辻由希、名取良太、日野愛郎、三船毅

監事：吉野孝

幹事：秦正樹、平野淳一、三輪洋文、横山智哉

議題

I. 前回議事録の承認

II. 報告事項

1. 各委員会の活動状況について

*企画委員会より報告

名取良太 2019 年度研究大会委員長より、2019 年度研究大会の企画決定が大幅に遅れたことについてお詫びがあった。前田幸男 2020 年度研究大会委員長より、現在の状況について説明があった。企画委員 9 名と調整をしながら、9 月中を目処にセッション案を提出してもらい、それをとりまとめて、年内には全体像を提示できるよう考えている旨の報告があった。

*編集委員会より報告

森裕城 2019 年度編集委員長より、選挙研究 35 巻 1 号が発行された旨の報告があった。また 2 号についても 8 本の論文掲載を予定していることの報告があった。竹中佳彦 2020 年度編集委員長より、特集企画の内容と方針について説明があった。

*査読委員会より報告

堤英敬 2018 年度査読委員長より、投稿状況等の報告があった。堤編集委員長の間、1 年で 4 本の投稿があり、不可 1 本、再査読で断念 1 本、受理 1 本、再査読中 1 本であることが報告された。また投稿する際、電子ファイルにつけられている著者情報を消してから投

稿するよう会員に注意の周知をするよう要請があり、事務局が対応することとなった。また、査読論文に関して「査読論文であることがわかるようなクレジットは論文についているのか」との質問があり、「目次で査読論文であることがわかるようになっている」との返答があった。

*学会賞選考委員会より報告

川人貞史 2018 年度学会賞選考委員長が欠席のため、山田真裕事務局長の代読により、状況報告があった。学会賞受賞候補者の全員から、学会賞受理の確認を受け、総会での表彰式で受賞する予定であることが報告された。

*選挙管理委員会より報告

只野 雅人選挙管理委員長より、今年度を実施される理事選挙について、9 月中に有権者名簿を確定させ、順次、投票用紙の送付を行う方向で順調に進んでいると報告された。

2. 2019 年度総会・研究会の開催について（東北大学）

河村和徳委員長より特段の問題なく順調であることが報告された。

3. 2020 年度総会・研究会の開催について（高知工科大学・高知県立大学）

肥前洋一委員長より 2020 年度の研究大会について企画委員と調整しながら順調に会場準備が進んでいることが報告された。

4. 2021 年度総会・研究会の開催について

品田理事長より関東を中心に開催校の打診を進めている旨の報告があった。

III. 審議事項

5. 2018 年度決算・監査報告について

山田事務局長より、2018 年度決算・監査報告について原案が出された。審議の結果、異議なく承認され、総会で諮ることとなった。

6. 2019 年度決算案について

山田事務局長より、2019 年度決算案について、総会で諮る原案が出された。審議の結果、異議なく承認され、総会で諮ることとなった。

7. 理事長選出方法について

山田事務局長より、理事長候補者の選出方法に関する規定改正案について提案があった。前回理事会で提示された案から修正された部分について山田事務局長より説明があり、審議の結果、異議なく承認され、総会で諮ることとなった。

8. 査読委員会規程改正について

堤査読委員長より、査読委員会の開催スケジュールに関して、これまでの「年 4 回、定期

的に開催する方式」から、実態にあわせて、「投稿次第、適宜開始する方式」に変更するための規定改正が提起された。改正案について審議の結果、異議なく承認された。

IV. その他

1. 入退会申込者について

山田事務局長より、入会希望者1名について提案があり、審議の結果、受理された。新入会員を含めると、会員数は7月13日現在で456名であることが報告された。

以上

日本選挙学会 2019年度第2回理事会議事録

日時：2019年09月21日（土） 14時35分～16時00分

場所：学習院大学目白キャンパス東2号館13F・法学部大会議室

出席者：

理事：品田裕（理事長）、山田真裕（事務局長）、井田正道、岩崎正洋、遠藤晶久、
鎌原勇太、川戸恵子、河村和徳、堤英敬、只野雅人、名取良太、肥前洋一、前田幸男

監事：吉野孝

幹事：秦正樹、平野淳一、三輪洋文、横山智哉、善教将大

議題

I-A. 前回議事録の承認

I-B. 山田事務局長より善教将大氏（関西学院大学）を幹事として加えることが報告された。

II. 報告事項

1. 各委員会の活動状況について

*編集委員会

森裕城 2019年度編集委員長（山田事務局長の代読）より、選挙研究 35 巻 2 号が予定通り出版に向かって進んでいることが報告された。36 巻については竹中佳彦 2020 年度編集委員長（山田事務局長の代読）からは、特集論文の執筆を 5 名に依頼し、うち 3 本は執筆者より快諾を得ていること、従来の研究大会共通論題における特集だけでなく、広く会員からの論文公募も行う旨、既に WEB ページ等を通じて告知していることが報告された。

*企画委員会

名取良太 2019 年度研究大会委員長より、東北大学での選挙学会 2019 年度研究大会の無事の終了が報告された。ただし、台湾からの報告者が 1 名当日キャンセルとなったため、その者についてのみ、事後的に報告者リストから削除するよう手配している。

前田幸男 2020 年度研究大会委員長より企画公募の状況について以下のように報告があった。9 月 20 日までに合計 24 件の報告依頼があった。同じ報告者による口頭報告・ポスターセッションの重複について、共同研究の増加という背景もあり、筆頭著者としては 1 本ずつという前提は維持した上で許可する方針である。共通論題は、地方政治に焦点を当てた報告を検討し、報告者の依頼も進めている。各公募報告とあわせて、次の 12 月理事会までに各分科会の内容を確定させる予定である。2020 年大会より、新規会員募集の意味もあり、SNS 解禁を試験的に進めたい。公式ツイッターアカウントを作成し、担当者も専用に置く予定である。開催校の確認や報告者への周知なども調整しなければいけない

が、準備を進めている。権利関係の事も含めて、明示的なガイドラインを詰めて次期理事会に向けて企画委員会内で詰めて提示したい。

2. 2019年度総会・研究会の開催について（東北大学）

河村和徳委員長より、2019年度の研究大会が滞りなく終了した旨の報告があり、最終的な会計について報告された。

3. 2020年度総会・研究会の開催について（高知工科大学・高知県立大学）

肥前洋一委員長より、開催校の記載について、キャンパス（会場）の都合により「高知工科大学・高知県立大学」と併記することとなった旨の報告があった。高知工科大学・高知県立大学においても、日本選挙学会との共催について許可を得た。

4. 選挙管理委員会

只野雅人選挙管理委員長より、理事会選挙に向けた選挙人名簿の確定と今後のプロセスについて報告があった。

5. 2021年度総会・研究会について

品田理事長より、2021年度総会・研究会の会場について、学習院大学に依頼中であることが報告された。

III. 審議事項

6. 日本選挙学会公選理事候補者選出選挙被選挙人・選挙人名簿について

山田事務局長より、有権者名簿の作成方法に関する説明の上、有権者名簿の提案がなされた。2019年7/1現在で会費納入済の者を元に、選挙区Aからは被選挙権者が130名、投票権者は137名、選挙区Bからは被選挙権者・投票権者が同一であり126名となっている。この有権者名簿について提案され、異議なく承認された。

IV. その他

7. 入退会申込者について

山田事務局長より、入退会申込者について、前回理事会以降に1名の入会申込者があり、9月21日現在の学会員数は457名であることが報告された。

8. その他

河村理事より、非学会員の参加者に関して、どの程度まで許容するのか（とくに分野が全く異なる大学院生など）については事前に合意を作っておく必要があるかもしれないとの提案があった。

V. 懇談事項

事務局より、『選挙研究』への投稿を促進するために short article や research note のような区分を設けてはどうかという趣旨の発言があり、これを受けてさまざまな論点について議論がなされた。『選挙研究』においても、過去には「研究ノート」という枠があったが、現在はほとんど使われていないことも指摘された。大きな方向として、投稿論文数が増える方向への試みは歓迎されるべきであること、研究のジャンルを定めて定義をすること、投稿者の希望を第一とすることに関しては合意が見られたが、編集委員会・査読委員会の権限など、学会誌の在り方全体にも関わるため、継続的に議論することとなった。

以上

事務局だより

【新入会員】

昨年度のニュース・レター発行後に入会申請が承認された方は、以下の 20 名です（申請時の所属を記載しております）。

向井 洋子（熊本学園大学）	海老澤 聡（慶応義塾大学）
鶴岡 正寛（朝日新聞社）	青木 研輔（東大手の会）
田部井 滉平（早稲田大学）	中越 みずき（関西学院大学大学院）
藤井 大樹（京都大学大学院）	菊池 柊太（九州大学）
西村 翼（神戸大学）	立花 茂生（長崎県立大学）
池田 文（早稲田大学）	網谷 龍介（津田塾大学）
松浦 淳介（慶応義塾大学）	山口 順平（國學院大學大学院）
徳地 良哉（同志社大学）	車田 忠継（二松学舎大学附属高等学校）
読売新聞東京本社政治部（法人会員）	佐藤 敦子（慶応義塾大学）
笠松 怜史（東京大学）	中西 正紀（(株)古今東西社）

【退会会員】

昨年度のニュース・レター発行後、13名の会員が今年度末で退会予定です。

【現在の会員数】

上記の異動で、2020年2月末日現在の会員数は、464名（うち3名は今年度末で退会予定）となっております。

【会費の納入について】

会費は郵便振替によって納入して頂いております。口座番号と会費は以下の通りです。

口座番号

振込先（加入者名）	：	日本選挙学会
口座番号	：	00170-2-31731

年会費

正会員（大学院生以上）	：	8,000円
法人会員	：	10,000円
準会員（学部学生のみ）	：	2,000円

会費を納入された方には、該当する年度の『選挙研究』を送付いたします。

過去の会費の滞納状況によっては、学会からの事務連絡、研究会での報告、年報への投稿資格などが停止される場合もあります。理事選挙のある年の7月1日時点で当該年度の会費が未納の場合、理事選挙における選挙権・被選挙権が停止されます。会費は、滞納がある場合、滞納分から充当していきます。

2008 年度から、滞納猶予期限 3 年を経過した会員の方には自動的に退会して頂くことになっております。2020 年 3 月末日で 3 年間会費未納の場合、2019 年度をもって自動退会扱いとなります。

なお、会費納入状況につきましては、学会 HP の会員用ページ (My JAES) でご確認下さい (<https://www.jaesnet.org/myjaes/index.php>)。

【2020 年度総会・研究会について】

2020 年度の総会・研究会は、**2015 年 5 月 16 日 (土)・17 (日)** の 2 日間、肥前洋一大会運営委員長の下、高知工科大学・高知県立大学で開催される予定です。

宿泊については、開催校では準備いたしませんので、各自でご手配下さい。

【学会ホームページについて】

2009 年に学会 HP の全面的なリニューアルを行うとともに、会員用ページ (My JAES) を導入しました。My JAES では、会員情報 (「所属」「役職」「メールアドレス」「生年」)・書類送付先 (「郵便番号」「住所」「電話番号」「FAX 番号」(電話・FAX 番号の登録は任意)) の変更、会費納入状況の確認を、会員ご自身の手で行って頂くことができますので、是非ご活用下さい。特に、書類送付先については、誤配・遅配などの原因となりますので、会員各自で随時更新して頂きますようお願い申し上げます。また、研究会での報告の応募、報告概要や論文、のダウンロード・アップロードを学会 HP で行うようになっております。また年報『選挙研究』への投稿も学会 HP から可能ですので是非ご利用ください。

※※※事務局からのお願い※※※

事務局からの各種ご案内も、学会 HP やメールを活用して行うようになっておりますが、登録されているメールアドレスに誤りがある場合、配信不能となってしまいます。My JAES にて、ご自身のメールアドレスに誤りがないか、ご確認頂きますようお願い申し上げます。

【『選挙研究』の電子アーカイブ化・電子ジャーナル化について】

すでにご案内したとおり、日本選挙学会年報『選挙研究』第 1 号から第 23 号、第 24 巻から第 33 巻 2 号については、電子アーカイブ化が済み、独立行政法人・科学技術振興機構 (JST) の J-Stage (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jaes1986/-char/ja/>) で公開されております (2012 年度より J-Stage に登載移行となりました)。是非ご活用下さい。

なお、『選挙研究』に掲載される論文等は、発行から 2 年が経過した後、原則として電子化されます。ご執筆頂く方々には、この旨ご了解頂きますよう、お願い申し上げます。

何かご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせ下さい。

【事務局について】

日本選挙学会の事務局は、理事長の所属する神戸大学に所在しておりますが、事務局長・幹事は以下の6名が務めております。学会に関する各種お問い合わせは、事務局長までお願いいたします。

事務局長：山田 真裕（関西学院大学法学部）
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155
Tel：0798-54-6415（山田研究室直通）
E-mail：office@jaesnet.org

幹 事：善教将大（関西学院大学）
秦正樹（京都府立大学）
平野淳一（甲南大学）
三輪洋文（学習院大学）
横山智哉（金沢大学）

[目次へ](#)